

發行兼編輯人 川崎文治
印刷所 常磐新聞社
常磐新聞
刊夕日二月三

定部金貳錢 廣五號十二休日曜大祭 福島縣石城郡平町三番地
郵税五厘 告字一刊日 印刷所本社専屬 陽社

學 生
シバカ子帽
タシマヒ揃山澤ガノイ安
▶々色リヨ錢十五◀
部品洋谷大
大谷時計店
平町三丁目 電話一九番

一册の代金で
御希望通りな
五册の雑誌が
自由に讀める
平町長橋町三五
川崎巡回文庫
(申込次第規則書進呈)
移轉急告
美味で評判の
遠藤パン
(有聲座西隣)

眞に是れ鬼に金棒!
耐火耐震耐久力の絶大なる
日本コンクリート鐵網
拔群優秀なる斯界の權威
磐城セメントを推奨す
最も經濟的に然も超越せる無比の良材
(施工説明書を進呈致します)
特約代理店 平町五丁目
和洋銅鐵
釜屋商店
金物問屋
電話 園九番 一三九番

局藥邊渡
品藥料染 劑調方處
目丁三町平
郎五政邊渡
(向局便郵)

集募名數員店小
第次越申御は方の望希御
候致可附送御則店
三井吳服店
平町三丁目 電話三番

政治の運用に
國民の監督
寄書
政界通人
政黨内閣の出現と共に國民多年の要望であつた普通選舉も遠からずして實現せられんとして居るが是は政治發達史に於て一革新紀元を劃するものであると信ずるかくの如き喜ぶべき現象を急轉直下の招來しつつあることを考へる時に吾人は政黨内閣でなければ政治の運用が圓滑に行はれないと云ふ事實を明らかに知つたのである凡そ社會には幾多の

賣却廣告
一、木造瓦葺土蔵二棟總建坪三十九坪
一、味噌仕込用桶 五尺十二本四尺五本 三尺以下六本
一、其他味噌仕込用器具一切
一、葺瓦五百枚並ニ石造麴室
右賣却致ス可ニ付御希望ノ向ハ平町三丁目壹番地乃木バー迄御申越相成度候也
石城郡好間村
高木キノ

石川の銀なべ
町田町平
番三四シモシモ
願書提出 三月十日迄
生徒募集 平陽女學校
校舍新築 規則書二錢ヲ要ス
平町搦槌小路 電話四四五番

釀造元 石城郡平窪村
酒鶴仙拳松吉屋本店
電話二四一番
生徒募集 平産婆看護婦學校
平町南町 電話三〇七番

の火の手が四方に擧がり又元老廢止の説も衆議院の有力者を始め國民の間にもこれを唱ふるものさへ生じてゐるのである換言すれば今日は單に元老とか貴族とかいふだけでは社會に働く一勢力たる力がなくなりかけて來たのである少くとも働きがされないう様である事は國民一般のよく知る處であらう。

株式賣買中値
電話に金融致し
銘柄 拂込 時價
磐城銀行 五〇〇 五三・五
平銀行 五〇〇 六八・〇
同 新 権利 四三
磐城銀行 一一・五 一〇・五
磐城銀行 五〇・〇 四二・〇
磐城銀行 三〇・〇 二八・〇
田村實業 一一・五 一一・五
四倉銀行 一七・五 一七・五
農工銀行 二〇・〇 二五・〇
同 新 一五・〇 一九・〇
百七銀行 五〇・〇 五二・五
同 新 一一・五 一四・五
七七銀行 一一・五 九・八
郡山電氣 五〇・〇 四七・〇
同 新 二五・〇 二二・五
只見川電 一一・五 七・五
植田水電 一一・五 一六・五
二本松電 一一・五 一五・〇
磐城製菓 二〇・〇 二〇・〇
平信託 五〇・〇 二〇・〇
磐城製菓 一一・五 一三・五
植田物産 三〇・〇 二六・五
平製水 二五・〇 一八・〇
好間軌道 五〇・〇 二五・〇
入山新 三三・五 一七・〇
小田炭礦 二五・〇 七・〇
磐城炭礦 五〇・〇 四一・〇
同 新 二二・五 一八・〇
磐城セメント 五〇・〇 六三・五
同 新 三三・〇 四三・〇
平運送 一一・五 六・五
賣買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願上候
平町町 電話三三三番
丸登式店
川添房二郎

花見時が近づき

増加する犯罪の數々

被害者側の注意力に

欠陥あるが犯罪動機

△△△△△△△△△△
櫻村平警察署長談

花見時に近づくに従つて、
る／＼の犯罪が増加して來
ます。犯罪の原因動機を犯
人の心理状態から求めたな
らば

研究する

餘地が澤
山ありますが多くの犯罪に
ついて研究して見ますと犯
人よりも犯人の目標となる
被害者方面における注意力
の欠陥が犯罪動機をうなが
すに

一番影響

のあるも
のたといふことが認められ
ます。しかし勿論犯罪の遠
因から考へて見ますれば、
全く被害者に何等の不注意
の點のない場合の被害もな
いではありませんたとへば

春季狂者

が増加す
るのは例年のことですがこ
れら狂者が人を殺害したり
あるひは放火したり、また
は一種の色狂となつて婦
人をおびやかすといふが如
きのも犯罪意志の方面から
見るとしたならば、動機原
因といふものは別に存在す
るものではなく全く季節に
伴つて起る心理の動搖に基
くもので被害者には何等の

悪い點が

ない譯で
ありますですからかかる被
害を免れるにはかかる狂者
を早く発見するといふこと

上し濾過池、沈池濾及び配
水池各一箇をまじり舊城跡
面へ一萬五千圓で鐵管を敷
設することになったこれが
財源は起債二萬八千圓縣補
助一萬八千圓及び一般會計
から一萬二千五百圓を繰入
れることとした

男の寫眞を抱いて

一人娘が鐵道自殺

△失戀の爲めに

石城郡湯本驛を去る西方五
丁余の鐵道線路で昨日午前
二時急行列車通過の際飛び
込み胴体を滅茶々に轢断
され自殺を遂げた十七八才の
美人が あつた衣類

所持品等から察するに相
當家庭の婦人らしく平署か
ら齊藤部長出張視した懷
中には男の寫眞二枚を密か
に抱いて居たが其の裏には
鈴木ハルと記しあるのみで
何處の者とも判明せず死体
は一時町役場に於て

假埋葬

に附したが
平署の調査に依つて同郡玉
川村大字野田字大原鈴木某
と稱する資産家の一人娘で
鈴木ハル(三〇)と判明した同
女は東京の某家に家事見習
への爲め奉公中戀仲となり
深く云ひ交はした男があつ
たのに昨秋他から嫁を迎へ
た爲め失戀の未既世自殺し
たものらしく遺書の如きは
一本も残さなかつた

所澤航空見學

石城
郡鹿島村小學校高等科一二
年學生は本日校長に引率さ
れて所澤航空隊見學に出發
した

盛名ある

丸山畫伯

來平
當地山岳描寫
本邦水彩畫界の重鎮として
夙に盛名ある丸山晚霞畫伯
は来る七日來平し警城中學
校及び警城高等女學校にて
講演を爲し石城地方の山岳
を描寫する筈であるが同畫
伯は信州日本アルプス山下
の出身である關係上本郡に
於ける信州出身者である平
町萩原義雄、清野才二、内
郷村井出金次郎、荒井小十
郎の諸氏發起となり畫會を
催す由にて紙本半切卅圓、
尺五縮本五十圓であると

温泉復活

工事請負の
收得金は啣筒
購入費に充つ
湯本温泉復活に關し同町消
防組が七千四百圓を以つて
水管敷設工事の請負を爲し
た旨は既記の如くであるが
去る廿七日午後七時から三
函座に於て同組の總會を催
し満場一致同工事の速成を
契約したる由であつて收得
金はガンソリンポンプ購入費
に當てる計劃であるといふ

石城養鶏講習

石城
郡泉村小學校に於て七日正
午より同村農會主催養鶏講
習會開催の筈であるが講師
は野村技師であると

逃走した青年

詐欺犯を判明
石城郡江名町字南町山口屋
旅館事志賀カツ方に昨日正
午頃東白河郡棚倉町三宅明
と稱して投宿した舉動不審
の青年があつたので町町長
谷場駐在巡查が臨檢せる處
件の男は裏口から風を喰つ
て逃走せる爲め是れを追跡
し豊間村薄磯に於て同村駐
在宗像巡查と協力取押へ取
調べた處此者は棚倉生れの
三宅等とは眞赤な偽りで岩
瀬郡仁井田村字向手佐藤永
次郎(九)假名にて最近郷
里に於て爲替偽造の犯罪を
犯し逐電中の者であつた事
が判明し平署に連行嚴重取
調中

竹細工講習會

石城
郡農會主催竹細工講習會は
高久村鈴木之助氏宅に於
て三日より十日間開催する
筈で講師は横須賀武雄氏で
あると

常磐片々

磐新にお家騒動起り社員連
袂辭職

當然の運命とは云ふべきも
同業の立場からはれを見る
時一葉落ちて天下の秋を知
るの感痛切

湯本驛附近の線路で豪家の
一人娘が寫眞と心中、物云
はぬを苦にしてか

江名町に潜伏中の爲替偽造
犯風を喰つて逃走したがマ
サカに風船玉でなかつた情
なさは空にも飛べず薄磯
で難なく御用

警城新聞社紛擾

蓮沼氏以下連袂辭職

新らたに旗揚げの計劃
目黒氏の再起が因

平町に於ける同業日刊紙警
城新聞は政友系の新聞とし
て相當信用ある地歩を占め
て居たが現社長中野浩忠氏
と舊社長にして

同社持主

たる目黒
芳次郎氏との間に圓滑を欠
きた結果目黒氏は本日一
味の者を引連れ同社を乗取
り自身經營の衝に當るべし
と主張せるに至つた爲め
野氏の知遇を蒙つた副社長
蓮沼龍輔氏及び編輯長坂本

松島旅行

學生の旅行
氣分とても
云はうかも
う四時半頃
から目覺め
てがやく
と夜明けを待ちました早々
と御飯をいたゞいて蒸汽船

切り抜け

策を講ず
べきや種々態々に取り沙汰
せられて居る

入學準備折合

平第
二小學校にては本年度警城
高女其他へ入學志望者の父
兄を昨一日午前十時から同
校に招き入學準備に就き學
校と家庭の連絡に關し懇談
した

募集

文藝其他投稿
を募集します
まで外出を許されそれから
大地先生と千葉先生の御寄
贈下された茶葉によつて茶
話會が開かれました。先生
方の談話や獨唱をききなが
ら食べた菓子最後の旅行
と共に私共の胸の中からい
つまでも去らない事で
せう